

鈴鹿の風 平野 泰治 議員

鈴鹿市まちづくり基本条例に基づく、住民自治の拡大について

(質問) 人口減少の時代に入り、国や自治体の財政も非常に厳しい状況にあり、住民主体の行政運営へと改革しなければ、将来の展望は開けない。今後どのように進めていくのか。

(答弁) 厳しい財政状況の中、市民満足度の高い市政運営を持続するためには、住民自治の拡大は

不可欠である。そのために、現在、全地区での条例を推進する組織の設立に向け、各地区で、市民と議論を交わしながら、取り組んでいる。組織を設立するためのマニュアルも策定していく。今後は、鈴鹿市らしいと言われるような財政的支援や人的支援をまとめた地域づくり支援制度を構築し、住民自治の充実につなげたい。また、効果的で迅速な対応ができるよう、市の組織の機構改革も含めた推進体制を整え、鈴鹿市まちづくり基本条例の推進にスピード感をもって取り組んでいく。

平明の会 野間 芳実 議員

教育環境の整備について

(質問) 小中学校へのエアコンの設置と白子中学校の今後の見通しについて。

(答弁) 小中学校の普通教室数は約770教室あり、空調機器の設置を行うとすると、多額の費用を要するため、平成28年度の国・県予算に対する要望・提言の重点項目として、公立学校における空調設備の設置に関する国庫補助制度の事業

費の大幅増額について、文部科学省に要望を行う予定である。また、今年度に予定している稲生小学校の校舎棟増築事業については、普通教室への空調設備の設置も視野に入れて、前向きに検討を進める。

白子中学校の生徒数は現在1,110名であり、10年後にはさらに100人ほど増加すると推計している。通学区域の見直しを検討するとともに、適正な教育環境の確保を目的に、将来の生徒数に見合った校舎施設の整備に向け事業を進めたい。

その他の質問 ○子育て支援について

鈴鹿の風 明石 孝利 議員

夜間小児救急医療への取り組みについて

(質問) 本市の大切な宝である子ども達の午後10時半から翌朝8時半までの夜間の小児救急が、20万人都市でありながら、市内の救急病院で受け付ける事ができず、四日市市か津市に行かなければならないという問題、その現状ならびにその解決に向けての「小児科医師育成修学資金貸与制度」の創設について質問。

(答弁) 本市では平成20年から鈴鹿中央総合病

院の小児科医師削減により、夜間の小児救急医療ができなくなっているが、今日までの間、三重大学病院に平成20年と平成24年に市長、議長ならびに鈴鹿中央総合病院長とで小児科医師派遣の要望活動を展開している。また、修学資金制度については「三重県医師修学資金貸与制度」があり、それとの整合性を図ると共に、県と連携しながら取り組む必要がある。

その他の質問

- 救急車両出動における患者への対応について
- 企業誘致・進出における受け皿体制について

公明党 船間 涼子 議員

救急情報ネックレスの拡充について

(質問) 救急情報ネックレスは、平成24年の事業開始から3年になる。現在は配布対象が一人暮らしになっているが、一人暮らし以外の多くの方から「外出する時に安心できるので欲しい」との要望がある。今後、同居家族があっても障がいなどがある方や、日中一人になる方、認知症などで徘徊する方の早期保護・身元確認にも

配布対象を拡げてはどうか。

円滑な救命活動のため、災害時要援護者台帳に持病・服薬の情報を加え、定期的に更新すべきである。常に身に着けやすくするため、形状を工夫し、改善してはどうか。

(答弁) この3年で2,454人に無償配布している。拡充は、一人暮らし以外の災害時要援護者台帳登録者の要望を把握していく。情報の更新については、本年度中に登録者一人一人に郵送で確認する。形状は、改めて利用者全体の要望を把握し検討したい。